

オーストラリア・ニュージーランド文学会

2021年度
オンライン研究大会

2022年7月9日(土) 14:00~17:00 ZOOMにて開催

★プログラム★

司会: 佐藤 渉(立命館大学)

14:00 開会の辞

会長 加藤めぐみ(明星大学)

14:05-15:20 講演

講演者紹介: 湊 圭史(松山大学)

Peter Wyllie Johnston(メルボルン大学)

“Voices From a Restless Society 1920-2020: How a Century of Australian Musicals Revealed the Nature of Australian Culture”

15:30-16:10 研究発表(1)

司会: 小杉 世(大阪大学)

乙黒 麻記子(日本大学)

「サマセット・モームと南海の日本人—戦間期を中心に」

16:10-16:50 研究発表(2)

司会: 一谷 智子(西南学院大学)

三宅 一平(大阪大学)

「『狭間の国』に亡霊は潜む—Chris Womersley の *Bereft* における『物語』の諸相」

閉会の辞



*お問い合わせは ANZ 文学会事務局までお願いします。

wsato★law.ritsume.ac.jp (★は@に変えてください)

Australia New Zealand Literary Society of Japan

【講演者紹介】

ピーター・ウィリー・ジョンストン博士 (Dr Peter Wyllie Johnston)

メルボルン大学 Victorian College of the Arts/Melbourne Conservatorium of Music 名誉准教授。作曲家、ピアニスト、作家。The Australian Music Theatre Research Institute 監督。著書に *The Australian Musical: From the Beginning* (Allen & Unwin, 2020; Peter Pinne 氏と共著)、編著に *The Nick Enright Song Book* (Currency Press Pty Ltd, 2014)、ミュージカル (作詞作曲) に *Moses--the Spirit of Freedom* (2001)。ウェブサイト：<http://peterwylliejohnston.weebly.com/>



【研究発表要旨】

「サマセット・モームと南海の日本人—戦間期を中心に」

乙黒 麻記子

サマセット・モームは 1922 年にトレス海峡南部の木曜島を訪れており、その際の手記は『作家の手帳』(1949) に収められている。後年、それは『片隅の人生』(1932) の一部に昇華されるが、『手帳』と『片隅』では真珠貝漁に携わる日本人潜水夫の描き方がかなり異なる印象を受ける。英米両国の諜報員として働いていたモームが、南海に進出する日本人をどのように注視し、また表象したかを、他作品に見られる日本人表象もふまえて考察したい。

「『狭間の国』に亡霊は潜む—Chris Womersley の *Bereft* における『物語』の諸相」

三宅 一平

本発表では Chris Womersley の *Bereft* (2011) を、主に登場人物の在り方の不安定性に注目しながら読み解く。作中では「現実」と「物語」の関係が多く言及される。ここで見られる虚実の混交が、トラウマ的記憶を抱えた登場人物たちに対し、いかに作用するのか。あるいは、それが小説の構造をいかに揺るがすのか。作品の舞台に蔓延するスペイン風邪による「病」の象徴性にも触れながら、登場人物の、“Australia was an in-between place”という言葉が、意味を脱臼させながら、作品に通底する主題となっている様子を分析する。

Australia New Zealand Literary Society of Japan